



TITLE:

司会

AUTHOR(S):

内田, 耕太郎

CITATION:

内田, 耕太郎. 司会. 日本外科宝函 1989: 12-12

ISSUE DATE:

1989-12-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/204408>

RIGHT:

司 会

京都大学医療技術短期大学部教授 内 田 耕太郎

それでは続きまして、小澤和恵教授のご講演をお願いすることに致します。

先生のご高名はご来席の皆様もよくご存知のことですが、簡単にご略歴を紹介させていただきます。小澤和恵先生は、昭和31年に京都大学医学部医学科をご卒業になり、同36年京都大学大学院医学研究科の所定の単位を修得され、同年7月に助手、47年4月に講師、56年5月助教授を経て、昭和59年12月から日笠頼則名誉教授の後任として京都大学医学部外科学教室第2講座の教授として就任、本日に至っております。

先生は本庄先生に外科学教室入局の頃から何かにつけてよく目をかけてもらわれました。研究の関係で昭和41年脳外科から消化器外科に専攻するために第1外科に転じられまして、再び指導を受けられることになりました。ミトコンドリアを中心とする先生の研究につきましては、ここで私が申すまでもなく皆様ご存知のように、国内のみならず国際的にもいろんな先生方と共同研究しておりますが、以前から Cowley Isselhard, Starzl, Eiseman, Lee, Pichlmayr 教授等との共同研究を通じまして、すばらしい論文を数々発表しております。

小澤和恵先生は、本庄先生に絶大な信頼を得ておられました。これは、学問の領域だけではなく日常的な事柄におきましても、時には非常にすさまじい議論がございましたけれど、何れもお互いに信頼の中に交されましたもので、一貫して本庄先生を敬愛し、又、科学者としての本庄先生を心から尊敬しておられました。

今日、本庄先生が大きな life work のテーマのひとつとしておられました肝臓に関しまして、「肝臓外科をめぐる諸問題」と題しましてご講演を伺いますことは、本日のこの記念講演に非常にふさわしいものと思います。どうぞ小澤先生、よろしくお願い致します。